

郷土館発

## 南吉の足跡

「南吉が歩いた奥三河」というテーマで、半田市にある新美南吉記念館で企画展が開催されています。平成二十五年、郷土館で公開した南吉に関する展示資料をそこに提供しています。

南吉は安城高等女学校教諭時代に鳳来寺山の麓で研修を受けそこでいくつかの俳句を詠んでいます。その前後でしょうか、田口線に乗り清崎から歩いて塩津温泉を訪れたようです。南吉はその体験を「山の中」という小説に生かしました。南吉は児童文学作者として有名ですが、この作品は、大人を対象とした小説です。残念ながらこの作品は未完に終わり、書き上げられた

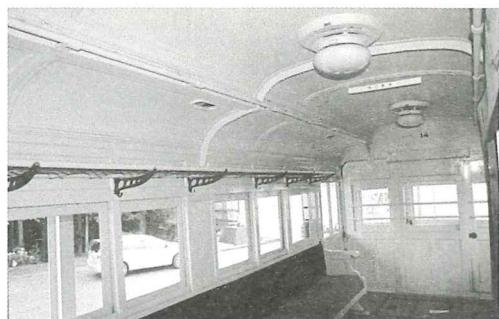


清崎駅(豊橋市鈴木萬年氏撮影)

\*本文中「田口線」とあるが、当時は「田口鉄道」であった。

部分が全集の中に収められています。

また電気が通らずにランプアで  
旧田口線沿線を見ると、あちこ  
ちの河原や土手に合歓の花が咲  
いています。田口線の車両の内  
部は「病院の待合室」と表現され  
ているように、白く塗られていま  
す。郷土館前の田口線車両を  
見ると実感できます。



## 「病院の待合室」と表現された車内 (郷土館展示車両)

た。嫁に来た頃の話を聞くと、南吉の小説そのものという感じがします。南吉が訪ねてきたと思われる昭和十三年から五年後ぐらいにここへ嫁に来たようですが、記憶にある宿と共に通す部分が多いのもうなずけます。

作品の中に蛍が出てくる情景が描かれていますが、野々瀬川沿いには、今でも初夏になると蛍が飛び交います。平家蛍の小さな光を見て幼年期を過ごした南吉には、源氏蛍の輝きが驚きだつたのかもしれません。

南吉が訪れた頃と変わつてしまつた情景も數多くあります、  
合歓の木、蛍、塩津温泉、田口  
線車両等、当時をしのぶことの  
できるものはまだまだ残つてい  
ます。田口線車両は清崎への移  
転とともに移動する予定です。  
南吉の目を通して描かれた車両  
や風景を忍んでいただけるもの  
と期待しています。

と期待しています。  
尚、南吉と奥三河のつながりは、大海で発行されていた「博物研究会」への投稿からです。しかし、この雑誌（研究会）については、全く資料が残っていません。もし、何等かの資料や記憶がありましたら、郷土館へ一報いただきますよう願います。

平成二十五年に「芳泉荘」のおばあさんにインタビューしまし